会 議 記 録

会議名称	杉並区行政評価検討委員会（第 4 回）
日　　時	平成 13 年 12 月 17 日（月）午後 2 時 00 分～午後 3 時 58 分
場　　所	西棟 6 階　第 5・6 会議室
出 席 者	委員 石谷、宇治川、北村、瓜谷、永久、藤原、古川、牧野、三輪、山本 事務局 行政管理担当部長、企画課長、営繕課長、健康推進課長、行政評価・行政改革担当副参事、計画推進担当副参事、定数・組織担当副参事 坪内前委員、野村総研、筑波大院生
配布資料	1　杉並区ベンチマークの検討案 2　杉並区ベンチマークの考え方 3　政策指標等検討小委員会議事録 4　第 3 回杉並区行政評価検討委員会の発言要旨等 5　ベンチマーク事例集（小委員会メンバーには配布済み） 6　○○委員提案 7　ざいせい２００１ 8　□□委員提案（席上配付）
会議次第	1　開会 2　送付資料等の確認 3　議事 (1)政策指標等検討小委員会検討結果報告（副会長） (2)質疑及び検討 ①区民アンケート掲載指標について ②指標の数と体系について ③ベンチマークの名称（愛称）について 4　閉会

■会長　それでは、落語ですと一番最初に、年の暮れも押し詰まってまいりますってぇと大変でございまして……と、こういうふうなので始まるのですけれども、第4回の杉並区行政評価検討委員会を始めたいと思います。

それで、ちょっとまだ○○さんがお見えになっていませんが、追っかけてお見えになると思うので、そこに配付された資料の確認と説明をしていただけますでしょうか。

■行政評価担当副参事　それでは、お手元の配付資料の確認をさせていただきます。

まず、資料1が杉並区ベンチマークの検討案ということで、小委員会で検討されたものでございます。お手元に配付のように、大指標が6分野で3個ずつということで18の指標、それから、中指標が各分野8から14の指標を設定しておりまして64の指標、それから、区の方で設定した小指標が186指標ということで、一覧表の形でお届けしてございます。

それから、資料2が杉並区のベンチマークの考え方ということで、これにつきましてはベンチマークを検討する中で考え方が少しずつ整理されたものを整理したものでございます。それから資料3でございますが、政策指標等検討小委員会の議事録。議事録と書いてございますが、要点筆記でございます。それから資料4でございますけれども、前回第3回の行政評価検討委員会の発言要旨でございます。それから資料5といたしまして、小委員会の検討の際に使わさせていただきましたベンチマーク事例集ということで、資料5でございます。ここまでについては、事前に送付させていただいてございます。

それから、そのほかに本日の配付といたしまして、小委員会の委員でもございました○○委員からの提案ということが、資料6としてございます。これは、本日席上に配付してございます。

それから資料7といたしまして、参考資料として「ざいせい2001」ということで、これも本日席上に配付させていただいてございます。

■会長　では、よろしければ議事の方に入りたいと思いますけれども。

政策指標検討小委員会3回、○○さんのもとでやっていただきまして、それを総括的にご報告をいただきたいと思います。

■副会長　今、会長からお話がありましたように、3回の小委員会を開きまして、小委員会としての意思決定をして、きょう資料として整理しております。お手元の資料の番号からいうと、1、2とあと3にその小委員会の議事録がございます。私の方からは、小委員会として合意に達したことについてご報告し、あと、これの検討委員会としての報告としてはこ

れで終わりなんでございますけれども、それ以外に個別として、この検討案に対して、さらにブラッシュアップなり、若干の補足をするということで、ほかの委員の方からご報告がありますが、あくまでも、これからご説明申し上げますのは小委員会として全員の方のご同意を得た範囲内においての内容をご報告したいというふうに思います。

それで資料2の方をまずごらんいただきたいと思いますが、特に第1回、第2回の小委員会におきまして、ベンチマークという言い方は最終的にはしなくなっておりますが、通称言われておりますベンチマーキングなりベンチマークの考え方を整理したものでございます。ここでは、基本的な視点、①から⑦ということで確認をしてございます。

したがいまして、ここで確認していただきたいことは、第1点の大きな視点といたしましては、区民にわかりやすく関心を持ってもらう。しかも、できましたら、毎年度変化するのがいいのではないかと。幾ら高邁（こうまい）な指標を設定しても、5年に1回ばかりデータをとれないとか、ほとんど変化がないものでは、毎年度関心を持って、その変化を見ていただくということはやはり無理だろうということで、わかりやすく関心を持ってもらって、なおかつ、それが毎年度変化をすると。ですから、職員の方が頑張る、あるいは区民の方が協働で頑張っていただければ、1年間にはそれが鋭敏に変化としてあらわれてくる、と。こういったものがまず重要ではないかということが、第1点の視点でございます。

第2点は、当然こういった試みはほかの自治体でもされておられるわけでございますけれど、杉並区として独自につくるわけでございますから、やはりここは杉並らしさが出るというのが、もう一点重要な項目であろうということでございます。

3番目は①と関連するわけでございますが、毎年とれるということでございます。

それと④は、かなり1回目は白熱したわけでございますが、こういったベンチマーク、通称のベンチマーキングという言葉は、ほかの自治体等を見ていますと、非常に包括的な、全体的な網羅性ということを重視されているわけでございますけれども、そうしますと、区民にわかりやすく関心を持ってもらうということはまず事実上不可能であろうということで、ここでは思い切って、区民がそらんじられる程度で、小学生とか、そういった方も覚えられるぐらいの程度に集約した格好がいいのではないかと。その集約のパターンにつきましては、後ほど○○委員等のまた別のお考えがあるようでございますけれども、基本的に非常に集約した格好でするということであります。

こういたしますと、網羅性であるとか全体性が失われるのではないかというような批判

が当然あると思いますので、それにつきましては、これの仮称ベンチマーキングの下の施策資料なり事務事業評価の中で、この全体としての杉並区指標との関係を整理する中で明らかにすればいいのではないかということで、これは、区の広報とか、あるいは区民にご理解いただく場合においても、こういった限定的な性格であるということを明確にすれば合意が得られるのではないかということでございます。したがって、多分、④というあたりが、非常にほかの自治体とは違ったところになるだろうということであります。⑤は、そうはいっても、ほかの自治体との比較可能性も頭には置く必要があるだろうということでございます。⑥は、当然④から出てくるそれの逆のバージョンでありまして、完全性とか包括性は、この仮称ベンチマーキングでは追求をしないんだということの明確化でございます。それと、⑦というのはこれは補足的なことでございまして、状況に応じて当然柔軟に変化するということでございます。

こういったことで、指標の構成といたしましては大きく6分野に分けております。

これは、資料1にお戻りいただきましてご確認していただきますと、ＡからＦがついていると思いますが、まずＡは安全・安心という大指標項目になっております。安全・安心の中には、当然最近よく言われておりますような、セーフティネット的な発想も入るんだということでございます。

次の大きな大項目といたしましては、Ｂの緑・環境～都市環境～文化・アメニティということで、ここで杉並らしさをかなり出そうということで、Ｂが入っておるわけでございます。

次の裏側になりますが、Ｃの方では、健康・福祉ということの大項目が挙がっております。ここでは、高齢者であるとか、ハンディキャップを持った方に対する政策ということも入るわけでございます。

Ｄは、産業・経済ということで、ここにはインフラの問題だとか雇用の問題というのも入るわけであります。また後ほどご説明申し上げますが、みどりの産業的な要素として、杉並らしさをここでも入れ込むということをやっております。

次がＥということで、従来からいきますと、よく教育委員会関係ということでまとめたわけでございますが、そうではなくて、ここでは自立ということで（人が育つ）という表現になっておりますが、こういった大きな枠組みの中で教育も見ていこうということであります。したがって、後でご質問申し上げますが、ＮＰＯであるとか、あるいは通訳ボラ

ンティアであるとか、こういった、直接、教育とは関係ないような領域の分も入っておるわけでございます。

それと、最後のＦということで、こういったＡからＥの大指標なりを支えるという意味合いにおいて、区の内部的なマネージメントについても一つの指標をやることが行政改革にも資するのではないかということであります。ここで、もう一つ特徴として、あえて申し上げますと、よく指標の場合においては、一部は、そうではないのでございますが、非常にネガティブなトーンで考えるというのも多いのではございますけれども。

特に自立で、先ほど来、Ｅの自立等におきましてはむしろプラス面を評価していくということで、むしろネガティブな側面を減らすということではなくて、もう少し、どんどん活発に能動的な活動の方を育てて、夢があるような指標ということを重視しようといったことで、例えば学力以外に、全国大会であるとか都大会に出場し優秀な成績を修めたであるとか、どういった分野でもいいわけなのですけれど、そういった要素を盛り込んでやっております。

これが全体的な枠組みでありまして、小委員会で結論が出なかったのは、ＡからＦのとりあえず暫定的な項目が三つぐらいの大指標はあるわけでございますが、これを一つにするのか、あるいは後ほど○○委員から説明がありますとおり、星取表のような計算で総合指標とするというのも一つの案でございましょうし、あるいはこの三つの指標のままで見ていくとか、あるいは三つのうちで、特に重要なものというのを丸印か何かして、6個を覚えていただくようにするとか、いろいろなバージョンがあり得ると思うんでございますけれども。当面は、この小委員会ではＡからＦの6分野につきまして、それぞれ各分野で三つの大指標を設定してございます。

中には必ずしもフィットしていないのではないかというご不満の方もおられると思いますが、これは先ほど来申し上げておりますとおり、毎年度変化するということで、統計的にもとらなきゃいけないというところで、かなり制約があったということで、結果的にこういうような状態になったわけでございますが、これはかなり鋭敏にきいてくるということで、少なくとも毎年度測定が可能であって、しかも各領域において、割合区民の方がイメージとして持っていただけるのではないかということでとってございます。若干、ご説明申し上げれば、その安全・安心のところで、何でその安全・安心が放置自転車であるのかと、これは美観じゃないかというようなご不満もあるかと思いますが、これは同時に災

害時等において非常に邪魔になるといいますか、危険な存在になりますし、こういったために放置自転車の問題というのは非常に、見える資料としてはいいのではないかということで、場合によっては、区民の方が関心を持って、この台数がどれぐらいあるかというのを数えていただくとか、そういったことも、区政に関心を持っていただくということではいいのではないかということで、選んだわけでございます。

あと耐火耐震というのは、これは非常にストレートなものであります。救急車の到着時間というのは、どちらかというとこれはいざというときに、やはり救急車が所要の時間に来ていただけるということが命にとって非常に直結するので、いいのではないかというようなことであります。

この下の中指標とか小指標というのは、この大指標で盛り込めなかったものをなるべく関連づけるということでやったわけでございます。したがって、中指標の方がいいのではないかというご指摘もあるかもしれませんが、先ほど来申し上げました七つの視点に沿って、それぞれ三つに集約をさせていただいたということでございます。

Ｂの緑・環境という大項目の資料では三つ掲げておりまして、やはり一人当たりごみの排出量なり処理量というのが、一つの環境問題としてはダイレクトに響くのではないかということであります。それと、電力消費量というあたりはエネルギーの節電ということにもなりますので、都市環境とか環境に優しいというような感じで訴えるところがあるのではないかということであります。それと、緑・環境というのは、当然、文化とかアメニティというのも入れ込んだ格好でございますから、これは特に聞くところによりますと公立図書館等にかなり力を入れておられるそうでございますので、図書館の貸し出し冊数等がいいのではないかということでございました。

引き続きまして、裏のＣの健康・福祉でございます。ここでも、先ほど来言っておりますようにネガティブな指標ではなくて、高齢者というと非常にマイナスのイメージでとらえられるのでございますけれども、そうではなくて高齢者が健康で活発に、最後は別といたしまして、なるべく元気な姿で区の中で生活していただけると、こういったことが一番重要なことであって、そういった意味からいきますと、健康寿命で測るとか、例えばこの定義ですと６５歳以上の要介護認定までの、どれだけ自分で自立して生活できるかという、なるべく他人の世話にならず、介護の世話にならずに自分で自立して生活できるという状態がいずれにしてもいいわけでございますから、そういった指標を設定することによって、

非常に暗いイメージを払拭しようということで工夫を凝らしたところでございます。

次の子供のやつというのは、これはちょっと若干ネガティブなトーンになっておりますが、これは未来がある方ですから、少しぐらいはネガティブなところもあってもいいということであります。それと同時に、こういった健康・福祉を支える基盤として、ボランティアも含めた福祉マンパワーがどれぐらいあるかということで、これは直接、区の行政だけではなくて、区民全体が支えるという、そういったマンパワーが整備されているということも重要であろうということであります。

Ｄは、産業・経済でございます。確かに杉並区の全体的な産業構造なり生活行動を見ておりますと、昼間は外で働いて夜は寝るだけだというような方もおられるわけでございますが、しかし、そうはいっても産業もあるわけでございますし、特に若い方の人気が徐々にまた出てくるところもあるということでありまして、ここではみどりの産業というのを非常にキャッチフレーズとして採用、順番は3番目になっておりますが、むしろ我々としては、これをトップになるような勢いとしてみどりの産業事業所と。このみどりの産業の中には当然農業も入っておることでございまして、決してアニメ産業であるとか、そういうものだけを指しているわけではなくて、みどりの産業という中には、そういった都市農業も含めた意味のイメージで考えております。それと同時に、アニメの事業所の比率であるとか集中度でありますとかそういったもの、あるいは、ＩＴの基盤が強いというのは最終的な産業構造を強めるということで、こういった3指標を考えております。

引き続きまして、Ｅの自立というところでは、主に確かに教育の問題であるわけでございますが、ここでも先ほど来申し上げておりますように、不登校であるとかそういうネガティブなイメージではなくて、なるべく、まさしく教育というのはエデュケートというのは伸ばすということでございますから、自発的に若い方の能力、あるいは若い方ではなくても全員の方の能力を育てて成長させようという意味合いで指標をつくっております。

そうはいいましても最近学力低下等の問題も言われておりますので、決して学力だけで比較するわけではないわけでございますが、一つの重要な指標として学力というのも盛り込んでおります。しかし、学力だけではこれは問題がありますので、それに対応いたしまして、どの分野でもいいから優秀な成績なり、あるいは参加したということも若い方の成長の一つの判断資料だということで、こういった要素を入れることによって、学力だけのネガティブな側面をここで相殺しようということを考えております。それと同時に、授業

のプロセスにつきましても着目いたしまして、単にインターネットを利用できる先生の数いいますと、実際は授業に使うほど習熟していない先生も含まれる数になり、まずいということで、実際授業に先生方がお使いになっているという意味合いで限定して、これからのＩＴ教育を推進していくということで代表的なものを挙げております。

最後の区政の経営というところにおきましては、これはやはり効率的で、しかも最終的には区民全体の福祉の向上という両方とを支える。それと同時に、21世紀ビジョン等にもあるような区民との、この共同とあるのはどちらがいいのかわかりませんが、いろいろな意味合いにおいて多分もう一つの別の、協働の方がいいと思いますが、コラボレーションの方だろうと思いますが、区民参画の行政を行っていただくということで、区民1人当たりの行政コストというのは、効率化の指標でございますし、あるいは区政の満足度というのは、一つのいろいろ問題もありますが、有効性なり効果を測定するという一つの代表的な指標であろうと。それと同時に、やはり区民との協働・参画ということから言えば、これは直接区長さんなり、あるいは区のトップなり、区の職員の方と区民との直接的な接触機会がどれぐらいあるかというのが、結果的には区民の方の意見を反映できるような行政になるのではないかということで挙げております。

以上が、大体の皆さんのご同意を得た段階でございまして、なおこの案の中では、さらに後で事務局から補足していただけるかと思いますが、間違いなく毎年度統計的にとれるかどうかという確認作業が、まだ若干残っております。

それとあとは、ＡからＦの各三つということは、決してこの最終的バージョンとしても三つになるということではなくて、区民の方にアンケートなりご意見を聞いた中で、場合によっては、それぞれのＡからＦの各項目を一つに選んでいただくか、あるいは二つに選んでいただくとか、あるいは、きょう、後で○○、○○両委員からいろいろなご報告があるような別の総合化の案も含めてご意見を伺って、最終的にこの本委員会として決めていこうというようなことで、小委員会としては合意に達しております。

なお、資料2に戻りますと、残念ながら我々の力不足ということもありまして、詰め切れなかった問題が一番大きな問題として、ネーミングの問題がございます。これは、ベンチマーキングなりベンチマークということの名称は、外来的なことでよくない。しかも、ほかの自治体との同じようなイメージで持っているのはよくないということで、それを変えるということについては全員の合意が成り立ったわけでございますが、名称につきまして

は、ここに書いておりますような平仮名のみどり指標なりすぎなみマークなり何点か出ておりますが、これは残念ながらといいますか、むしろ本委員会で、ここでお決めいただいた方がいいのではないかということで、2案ぐらいの具体事例が出ておりますが、これはあくまでも参考ということでご審議賜りたいというふうには思います。

なお、その2の指標の構成にも書いてございますとおり、③で書いてございますとおり、指標の候補は、区民アンケート等のためにやや多めにということでございまして、これが最終的な本委員会のバージョンということではないわけであります。したがって、多分、区の区民にアンケート調査をする場合もこの小指標まで含めて多分するということではなくて、大指標・中指標ぐらいのこのイメージで多分アンケートをやって、その中で、また委員会でフィードバックして考えることになると、こういうふうに考えております。

いずれにいたしましても、もう一度復習をいたしますと、我々の小委員会で一番苦労したといいますか、一番特色としては、よそのように20とか30とか膨大な指標の数にしないで非常に集約をしたということです。必ずしも現在の行政単位にということにこだわらずに、区民の行政に期待するような、あるいは区民の生活に関連する領域を五つに分けて、そしてそれをすべて支え、支援するということで、区政経営というのを最後に掲げておるということが多分一番の売りだろうと思っております。

以上が私からの報告でございますが、あと事務局等で補足することがあればご説明いただいて、その後に○○委員と○○委員から個人的なご報告をいただきたいと、こういうふうに思います。

■会長　どうぞ。

■行政評価担当副参事　それでは、事務局から少し補足させていただきます。

お手元の案でございますけれども、指標を中指標も含めて△印がついているところがあろうかと思います。この△印につきましては、指標の候補として挙げようということでございますが、若干疑念も残ると、少しどうかなという部分も残しつつ掲げさせてもらったというものでございます。

それから、これから候補ができ上がって、事務局といたしましては、できれば今日たたき台ということである程度絞っていただいて、これを区民に示して、区民の中で……、人気投票みたいな形のアンケートを実施して、それで絞るということもございますので、やや多めに出していただければというふうに考えてございます。

今の段階で事務局の補足は以上でございます。

■会長　ありがとうございました。ここの残りの資料は別に、これは参考でいいのですか、資料3あるいは議事録の要旨ということでいいのですか……。

■副会長　これはどういう議論をされたのかということだけでありますので、特にどなたがどれを報告をしたかということではないと思いますが。

■会長　後で必要があればどなたか言及していただいてもいいと思いますが。

それでは、時間も何でございましょうから、○○さんが補足的なペーパーを出しておられると思うので、ちょっとその辺について触れていただきます。

■○○委員　それでは、資料6というふうになっていますけれども、基本的には資料1を紡ぎ出す過程で、これはもっと簡単にならないのだろうかと、場合によっては中学生でもわかるぐらいの指標にならないのかなということで、少し私なりに工夫してまとめてみたものが資料6でございます。基本的には資料1をベースにそれをどう見せるかという技術的なことを少し工夫したものです。

なぜそうしたかといいますと、簡単にいいますとこの広報すぎなみ、こういうのがありますが、これはどこにでも置かれているやつで、区民が親しんでいるやつですが、これの1面トップに全部が載るためには、こういう大きさじゃないと無理なんですね。こういう感じですので。ということで、A4が3枚、こういうふうにありますと、これはどんなに小さな字にしても3ページぐらいにわたっちゃいますので、それでは見る気にならないんじゃないのということで、絞ったものでございます。ちょっとポイントを10項目ぐらい今から簡単に説明したいと思うんですが、その前に小委員会の議論の過程で明らかになったことを一つ、大事なことがございます。

私、実は最初は、以前出しました案にも出しておりましたが、杉並区の区民憲章・ビジョンの6項目をあのまま指標という形にして、幾つかの小指標を係数を掛けて、パラメーターを掛けまして、何かうまく合計した式をつくりまして、それで一つの例えば安全と安心みたいなものを代表するという、そういう合成指標ができるのではないかという、素人のイメージを最初持っていたのですが、それは意味がないことがわかりました。諸外国のいろいろなケースを勉強させていただいて、そういう合成指標をやりますと、何のことだかわかんなくなりまして、どの要因がきいて上がっているのかわからなくなっちゃって、混乱しちゃうということで、指標は統計的にとれるものをそのまま素朴に使うというのが、

大事だということを勉強させていただいた結果、最初私が挙げておりましたような合成指標、パラメーターを使う案は捨てました。

そういう意味では非常にシンプルになったわけですけれども、特徴として、まずこの資料6の左上を見ていただきますと、「杉マル（○）星取表」というふうになっております。杉マルというのは、別に今配られているこのみどりのこの「ざいせい2001」のこれで見ますと平仮名と漢字の両方なので、それでも結構だと思うんですが、杉マルで星取表ということで、それぞれの指標が前年対比でよくなったんですか、それとも残念ながら何かの要因で悪くなったんですかというのを、黒丸、白丸ではっきりと年度ごとに示して、例えばＡ危機管理であれば、ここを仮に左側の丸、6勝5敗になっておりますけれども、そういうような、9勝1敗だとか、1勝9敗なんていうのもあるかもしれません、そういうものを計算していったらどうかなと。そうすると子供たちでもわかるだろうなということでございます。

2番目に各項目のネーミングでございますが、非常に鮮烈なといいますか、よりはっきりとした表現を、私、とらさせてもらいました。これは、実は○○委員が前回提案をされたワードを私なりにまじめに考えまして、いいなあと。なぜなら、よくこういう指標をつくりますときに、安全とか安心とか、福祉とか、文化とか教育という非常にあいまいなワード、物すごく望洋とした抽象表現が先頭に立つわけですけれども、それよりは我々が何を求めているのかということをはっきりと、つまり「安全と安心」などというよりは「危機管理」というふうにはっきりした方が、区民の要望という意味でも鮮烈で、かつ行政の責任という意味でも鮮烈になるんじゃないかなと、そういう意味でＢとＣ以降、健康と福祉ではなく、あえて「福祉」というあいまいなワードを使わずに「長寿」と、我々は長寿を目指すというふうに、幸い杉並区は長寿日本一に近い、23区では平均寿命が一番高い、すばらしい区なわけでございますが、そういうものを目指すんだということをはっきりと言っちゃった方がいいんじゃないかということで、このように改めております。あいまいな表現を、より鮮烈にしております。それが2番目の特徴でございます。

それから3番目、その横に何勝何敗とはっきりと書いてしまうということですね。

それから4番目、先ほど○○さんの方からプレゼンテーションがありました資料1のこの大指標・中指標がこういうふうに前に出ているものと後ろに出ているもの、この大指標・中指標がこういうふうになっていまして納得性がどうだろうかということで、並べてしま

っております。並べてしまっておりますが、大指標の方が恐らく非常に大事で、これは例えば5年ぐらいは変えない。もしかしたら10年変えない、と。中指標の方はもしかしたら変わるものがあるというようなことで、大指標は太字になっております。中指標の方はそのままの字で書いてございます。

これをざーっと並べまして、なお区民が見るときはこれでいいと思うのですが、行政の方から例えば区長がこのＡＢＣＤＥＦについて、特にことしはこれを重点的にやるぞという恐らく施政方針演説があると思うんですが、その重点課題については下線を引きまして、場合によってはそれを前に出して、少し説明してもいいかなというような感じで書いてございます。太字は基本指標、また下線は本年度重点指標というような形で並べてあるというわけでございます。

それから、この右側ですね。資料1では小指標が、だーっと百数十個ですか、180個ですか、並んでいるんですが、これが、ぐわっと並んでいても区民の方は困っちゃうかなということと、それからこの小指標は、ほとんど事務事業評価に近い、いわゆる行政のナイーブ的な指標で、開示を求められればどんどん開示したらいいと思いますし、ホームページに全部載せておくというのはいいんじゃないかと思うのですが、必ずしも印刷物にこんな細かいものが全部載っていても困っちゃうんじゃないかということで、それよりはＡ4の1枚で書くときにはこの小指標の方は無視しまして、むしろ中指標・大指標の、1項目につき10個とか15個とかあるわけですが、その説明を軽く、一体これはどういうふうにとるのかということをさっと1行で解説したものをこの一番右側に書いたらいいんではないか。その式がもしあるならば、一人当たりの年間排出量割る人口だとか、そういうものをちょっと書いておくと、子供たちが小学校や中学校でこれを先生が授業に使う場合でも、一体これはどういう算術で出てくるのかと、これは算数の非常にいい勉強にもなるんじゃないかというふうに思うので、そのようにしたらいいんじゃないかと。小指標は意味がないと言っているわけじゃありません。これは全部、自動的にとられるデータのようなので、これはネットには全部には載せたらいいのではないかというふうに思っております。

中項目といいますか、この中項目も大項目も私の案の場合にはないのですが、この真ん中にだーっと書きましたものは、象徴的でかつ本当はもっととりたいものがあったんですが、毎年計測可能という、ウオッチすることが可能なものが意外となかなか難しくて、どうしてもとりたいものでとれるかどうかわからないかなというものまでまだここに載せて

おります。中には、例えばＥの自立と文化、これは主に教育分野のところですけれども、一番最初にございました学力比較というのは今お母さんたちが最も関心を持っているテーマであるんですが、実際には文部省全国一律のテストはまだ行われておりません。恐らく、これ、計画にはのっていると思いますけれども。したがって、もしこれを指標にするとすれば、どこぞの塾で、かなり広範囲にやっている塾でグロスの数字を公表してくれるところがあれば、個別はまずいと思うのですが、それをいただくしかない、と。そうでなければ、杉並区が独自にこのテストを実施することになりますと大変なコストがかかりますので、非常に難しいと。ただ、お母さんたちが物すごく今意識しているポイントでもあるというようなことでございます。

　そういう、幾つかだーっと挙げた中には難しいものも入っているんでございますけれども、私はできればこのＡＢＣＤＥＦと、各項目が10個前後ぐらいになればいいかなと。したがって、全部で60ぐらいがいいかなとは思っておりますけれども、先ほどまじめにこれはちょっと省けるものがあるかどうかもう一度考えましたら、例えばＣの健康と長寿というところ、区民の関心が物すごくあるところですね。今週の広報すぎなみも「高齢者福祉施策の推進を望む声がトップ　区民意向調査がまとまりました」と、こういうふうにありますけれども、このＣの関心は恐らくとどまるところを知らないと思いますので、Ｃ並びにＦにつきましてはどう考えても絞れないなというふうに、先ほど思いました。せいぜいＣを17を15にする程度かなと。あとＡＢＤＥは、私、今絞ってみまして10個ぐらいにはなるかなという気もいたします。重複しているものもちょっと幾つかあるので。それですとＡＢＤＥ10個、ＣとＦが15個で70というような形に私案ではなることになります。

　大体そんなところかな。そんなところでございます。

■会長　どうもありがとうございました。大変中身の濃い内容でございましたので。　○○さんの資料もこれに関連したことでしょうか。ではお願いします。

■○○委員　前にお願いしてあったのですがきょうもう一度、ちょっと清書はしてこなかった部分で、第3回の小委員会のときに出した資料で、兼用ということで出してほしいということで、出させていただきました。資料6の続きというふうに私の方から提案ということで、していただければと思います。

　先ほど副会長から小委員会の会議のことには余り触れられていなかったので、それももうちょっと補足をしながらちょっとだけ。4ページをちょっと、こちらの資料3の4ページの

ところにも多少かかわるので、それをあけていただければと思います。

最初に行政評価システムの全体図と考え方という、私が今書いた方です、手書きの方です。これは1回目から、ずっと私、これを共有した上で進めたらいいなというふうに思っていた部分を一応図にしました。要するに、今回のベンチマークというものは、三つのピラミッド型でいいますと、政策・施策・（事務）事業、そこのところの数値にあらわれるもののベンチマークだと。要するに全体の行政評価システムの中では、ごくごく一部にすぎないということを確認したいということです。そして、人事政策・財政政策・業務政策、これは人・金・仕事の全体の管理、行政評価システムは連携したものとしてとらえることで、これが区民にとってわかりやすく、要するに行政が身近に感じるそういう行政評価システムになるんじゃないかということです。それでアカウンタビリティというものがありましたけれども、それは行政は、2番と一緒に申し上げますと、従来の利害関係者に対する調整にとどまることなく、納税者・受益者・区民及び市民に対してアカウンタビリティを負っておるんだということです。

それから、この小委員会でも何度も申し上げたのですけれども、行政評価システム自体、ベンチマークも含めてですけれども、行政と区民がコミュニケーションがよくなることがまず大前提であって、そのために情報公開やそれからプロセスの明確化、透明性の確保、そういうものがどうしても必要だと。それが今回の数値化するというのは、なかなか難しいことかもしれませんが、前回の委員会のときに1月21日号でアンケートを、区民の意見をとるというお話がありましたので、今回のベンチマークについての位置づけですね、それも明確に要するに仕組みづくりをこれからまたやるんだけれども、その仕組みづくりの中の一部分としてベンチマークがあって、これからまだまだ続くんだということが皆さんにわかるような、そういうような紙面にしていただけたらというふうに思っています。

あと、区民参画と協働については、今までもありましたけれども、要するに全体の上からの部分と下からの部分、今回のベンチマークももちろんそうなんですけれども、大項目・中項目と小項目がどういうふうにつながるのか、実は小委員会ではなかなかそこまで、たくさん小項目がありましたし、それから事務局の方から出てきましたので、それについて小委員会全体で共有するところまではなかなかできませんでしたので、そのあたりもこれから、先ほど○○委員がおっしゃったように毎年変えていく可能性も含めてそういうふうにしていったらいいんじゃないかなというふうに思っています。

それと、2番目の政策評価指標ですけれども、これは1番の行政の役割ということで言いますと、やはり「いのち・安全・安心指」標というふうに私は一応しましたけれども、「安全・安心」だけではなくて、「いのち」という平仮名で、それがやはり最低限度、行政がどんなに財政が悪くてもやらなくちゃいけない第1優先順位だろうと。

そして、人を育てる。未来を輝くとか、○○委員もおっしゃっていましたけれども、これも検討委員会の中で何度も言っていることですが、教育委員会と区長部局というものがなかなか一緒に連携できないということで、適切な連携、関係づくりを前提とした教育指標というものを第2優先順位指標としたらどうかと。

そして、最低限度の文化水準指標と、上乗せ・横出し。これももちろん、コストの関係やなんかみんな含めてどこまでできるのかというのを第3優先順位指標としたらどうかと。

環境の問題ですけれども、21世紀ビジョンで掲げられているんですが、小委員会でもちょっとだけ申し上げましたが、基礎的自治体だけでできるものというのは、なかなかないんですね。ですから、もちろん十分尊重しなければいけないのだけれども、区だけでできるものは限られているということも十分踏まえた上でやっていく。そして、環境が大事、それでいのちを守るという、ここは一番真ん中と一番外がつながらなくちゃいけないんですけれども、そこらあたりもきちっと踏まえていったらいいんじゃないかなというふうに思っています。

それと、裏の方の具体的な指標なんですけれども、これはその仕組みの方にもかかわることに入っているのと、それから先ほどちょっと開いていただきたいと言った4ページですね。今回四つの危機突破プランと、緊急と、それから六つのがありましたが、それ以外でできればそのわかりやすさということでライフサイクルで分けて、そうすると非常にわかりやすいのではないかという、この口頭説明というところに書いておきましたが、子育て支援・子育ち支援・青年・大学・成年・中年・熟年・シニア・シルバーという、そういう分け方、これはこちらの手書きの方にちょっと書いておきましたが、真ん中ぐらいのところにライフサイクル別評価の可能性の追求ということで、協働や参画、アンケートというものを、そのライフサイクルというものをうまく使ったらわかりやすくなるのではないかというふうに思っております。

それとあと、一番上のボというふうに書いてあるのは、ボトムアップということで、やはり職員の人たちも非常にこう、チャレンジしたときに評価されるということとか、それ

から区民との協働ということで言えば、区民のアイデアを生かした事業を展開するというようなこともいいんじゃないかと。それからあと、数のことでいいますと、参加比率というのがあります。参加確保、参加比率ですね。上から3分の1ぐらいですか。そこに企画運営人数：参加人数というふうに書きましたが、参加した人数だけではなくて、企画運営にかかわった人の人数と参加した人数、必ずしも参加人数が少なくてもいいものをやっている場合もありますし、それから企画運営というのは、これからコミュニティを支えるリーダーになる可能性のある人ですから、そういう人たちの比率も入れたらいいのではないかというふうに思っています。

あと一番下の方は、そのライフサイクル別についての説明ですが、細かくなりますのでこのぐらいでしておきます。

それで、できれば、もちろん小委員の方に話をしていただきたいんですけれども、小委員会に出ていない方のご意見をたくさん聞けたらいいなというふうに思っています。よろしくお願いします。

■会長　3人の方からそれぞれご説明なりご意見の開陳があったわけですけれども、本日の議題はこのたたき台を何とか原案の段階まで取りまとめをしたいということでありまして。

まず先ほど幾つかご提案がありましたけれども、体系あるいは数について、ある程度結論を得たいと。それから、3番目には、積み残しになったそうでありますけれども、この名称、名前をどうするかと、この三つについてこれから議論をいたしたいと思います。

それで、幾つか考え方が出ておりますけれども、小委員会に参加した方も、あるいはしていない方でも結構なのですけれども。まずこの数なり体系についてどうお考えであるかということをお聞きしたいと思います。

■副会長　その前に、小委員会としては、ちょっと誤解があるようなんですけれどね、小指標までを含めてベンチマークというようなことは考えていないわけですね。ですから、この小指標というのは、その対応をつけるためにどういう大・中と、どういった対応があるかということを議論したためにつくっただけで、これを含めて公表しようとか、そんなことはもともと考えていないわけですね。それだけちょっと申し上げておきたい。

■会長　どうもありがとうございました。

■○○委員　これだけのものをおつくりいただいて、どうもありがとうございます。

質問なんですけれども、大指標と中指標の関係がちょっとわかりにくかったもので、そ

こら辺をお伺いできればなと思うんですが。

大指標の独立変数というか説明変数に中指標がなっているのかなと思ったのですけれども、必ずしもそうでもないし。じゃあ、いろんな指標の中で特に重視すべきものなのか、そこら辺の、何というんでしょうか、大指標と中指標の違いというものはどこから出てくるのかなというのが、一番最初の質問です。

二つ目なんですけれども、中指標の中にアウトプットの結果として出てくるものみたいなものが幾つか、例えば杉並区を安全・安心なまちだと思う区民の割合とかそんなのがあると思いますが、それはそのちょっと質的に違うんじゃないかなという感じがして、同じ扱いをしていいのかどうかという感じがしましたけれども。

その2点、ちょっと質問です。

■副会長　ご指摘の点は個人的にもそのとおりだと思いますが、ここでは要するにあんまり学問的なことは……、実は考えなきゃいけないんですけれども。

冒頭申し上げましたように、必ずしも明確な大指標・中指標の結果、この大指標が間違いなく達成できるであるとか、大指標を増長するためにはこの中指標がこれで完璧かであるかどうかというところは議論があると思います。

我々はむしろ仮称ベンチマークというのは非常に限定した目的ということを考えていまして、たしか何回かご議論いただいたと思うんですが、その明確な因果関係とその行政活動によってどういう最終的な目標に達するかというのは、多分この仮称ベンチマークに言われることではないだろうと、それが同時に達成できれば、これが一番ベストなんですが、それはなかなか難しいと。とりあえずは、毎年度杉並区がいい方向に向かっているのかどうかということを、羅針盤というか方向性を見出して、そこで問題点はどこかという段階で、次の政策評価なり行政評価の方に関心を向けていただいて、そこで行政の改善をやっていただくと。

ですから、ここでの主たる目的は、○○委員も○○委員もほかの方も多分同じ意見だと思いますが、区民に行政に関心を持ってウオッチャーになっていただきたいと。そして、その積極的に行政に対して関与していただく。それの一つの手がかりにしていただくということで、はっきりと明確に階層関係があるとか、中・小の中ではアウトプットとアウトカムがまざっているじゃないかとか、ご指摘のことは甘んじて受けますから。個人的にはそう思いますが、そこはあえてそれは、欠点は覚悟の上でこういう案に多分皆さん小委員

会のメンバーの方がご納得いただいたんだろうというふうに私は思っていますが。ほかの方からもしご意見があれば。

■会長　2番目は……。

■○○委員　2点目は同じ答えだろうと思います。

■○○委員　それに関してよろしいですか。

■会長　どうぞ。

■○○委員　今ご指摘のあった満足度と計数可能な指標という観点に絞って、私の考え方を申し上げたいと思います。計測可能がベストなんですけれども、満足度調査の項目を入れてもよいと思っています。これを経年的に改善していけばよいことで、必ずしも統計的データのみにとらわれた指標選定でなくても良いのではないかと思います。

それに関連して、単に関心があるから取り上げていいかという問題なんですけれども、関心があるということは、一般的に結果論的なんですね。将来こういう風に区民生活をよくしていくという点では、関心だけでこれを取り上げるかどうかという観点じゃなくて、むしろ区民が、ああ、そういうことをやったら将来に希望がもてる良い区になるなということに、むしろ重点をおいて指標をつくったらいいんじゃないかと思っています。

■会長　どうもありがとうございました。

　ほかにありますか。どうぞ。

■○○委員　大体、項目の絞り方、題のつけ方も一応いいんではないかと思うんです。ただ一つ、まず「自立」、自分で立つというのがあるんですが、実は私、カウンセリングの勉強というか現場にいるんですけれども。自立ヒステリーというんでしょうか、立たなきゃならないというネガティブな感覚のギャップとして依存症が生じるというのがあるので、この「立」をむしろみずからがみずからを律するという「律」に。

　要は、生活保護の人でもみずからがみずからを律することはできるわけで、そうすれば恐怖に基づくような、何か自立しなきゃならないという、そういう問題は起こらないと。もしくはキョウイクというのを協働の協に育てる「協育」。要するに、先ほど○○さんが言ったライフサイクル別というんでしょうか、幼年・成年・壮年・老年という、男女の話ばかりよく出るのですけれども、世代間断絶の方が非常に今、社会的な大問題になっているわけで。

　例えば、この委員の中では、ゲストティーチャーの数。やはり公教育が絶対だという、

これ、ヒトラーのときの学区域制そのまま実は来ているわけで、国家社会主義は。それをもうそろそろ、いい意味で自律、多分立つじゃない律、みずから自律して私教育的な要素もいろんな多様性を含めるという意味で「協育」と「自律」、みずから律するという形にするか、それとも、あとはゲストティーチャーの数みたいなものが、むしろいろんな例えばその地域の人のいろんな知恵をかりるとか、学校の先生だけじゃないと。そういう、やはり多様性、調和はあるけれど多様性もあるというのが多分21世紀の、これからの課題だと思うので、そういうのをぜひメーンにしていただきたいと。

あと不登校児童生徒数なんですが、こっちはちょっと細かい話になって申しわけないんですが、やはりこれも不登校だからネガティブなのかというと、必ずしも私はそうじゃないなと。それをちゃんと受ける皿があるかどうか。例えば昔のような、トットちゃんの学校じゃないですけれど、そういう自由度のあるようなもう少しプラス的なとらえ方、そういう場所をどれだけ私的に、スクールカウンセリングじゃないですけれど、私的な学校みたいなものが今いっぱいできていますけれど、そういうものがどれだけ育っているかという指標を、プラス的な意味で加えた方がいい。やはり不登校は悪いんだという、そういう考えはそろそろ脱却していただきたいなと思います。

あとは大体……、危機管理というのか、いのちかとか、やはりこの題名の絞り方というのはなかなか簡単なようで難しくて、余り作文みたいに学問的に突き詰めると難しいので、ある程度本当に、むしろ細かい項目というのですかね。例えば女性の参画指標というよりは、例えば私たちは例えば介護士なんかでしたら男性が少ないわけで、あとは外国人のアクセスの数とか、そういう、要するにいろんな、マイノリティーといっても、男性もある意味じゃマイノリティーになる場所もあるわけで、そこら辺もこう含めた幅広い指標の取り方をしたらおもしろいんだよと、杉並らしさ、本当の多様性のある杉並らしさというのが出てくるんじゃないかと、そういう感じがします。一応、今のところは……。

それと、若者を引きつけるという気持ちはよくわかるんですけれども、老人を引きつける巣鴨の「おばあちゃんの原宿」ではないですけれど、そういう要素も何かよくＦ1の弊害とよくマスコミなんかで……。要するにＦ1って、フォーミュラー1というレーシングカーではなくて、女性の一番若い層ですよね。そればっかりに注目しちゃうというあの感覚がちょっとあるんで。むしろ、それこそ幼・成・壮・老というものが、それぞれに魅力があるという指標にした方が、何かもう杉並ってある意味では、若者にとって非常にありがた

いまちというんですか、魅力あるまち。あと、アニメの率なんかある意味じゃ高いので、むしろ年をとった方々とかそういう人たちにも多様な満足が与えられるような指標を。どうも、つい若者と出てくるのですけれども、そこら辺を加えていただけたらありがたいなと。

一応、今のところは以上です。

■会長　どうぞ。

■○○委員　先ほどの発言は、○○さんのご質問に対しての答えでした。今回の発言はこの小委員会案に対する私の印象について申し上げたいと思います。

一つ目は、非常に良い項目案だと思います。判りやすく、メモを見なくても他人に説明できる、素晴らしい項目をピックアップして頂いたと思っています。

ただ中指標・小指標を見ますと全体の印象としては、もっと杉並は変わるんだな、自分も評価に参加していきたいなという項目に絞っていった方が良いと思います。つまり過去のことを単に評価するのではなく、21世紀に向かって、われわれ区民と区が協働して、こうゆう社会を築き上げていきたいんだというような指標を是非セレクトしたいなと考えます。どうも印象としては統計によるデータ抽出の可能性にとらわれたせいか、チョット暗いイメージの指標があるんじゃなかろうかというのが私の印象です。

それから、この中で抜けていて入れた方が良い指標があります。それは、例えば共生とか人権問題とか、教育についても成人に対する社会的に正しくなおかつレベルアップをどのように評価していくかという問題。それから国際度。杉並区民は非常に知的レベルは高いけれども、それを国際人としてのレベル評価ができないだろうか、そうゆう指標も入れていただけたらと思います。例えば三鷹市でも、国際化とか人権施設とかが指標に入っているやに記憶しています。またオレゴン州では市民参加とか社会支援とか地域開発とかが入っていて、こうゆうことをやっていくことによって結果として長寿になるとか、住みやすいんだとか、医療にかからなくても済むんだとか、そうゆう仕掛けに重点をおいたものにしたいと思います。

最後に、後で仕組みのところでの話になるかもしれませんが、指標作りには区のトップも参加することについて検討していただくことは如何でしょう。何故かと言いますと、われわれ区民も区政を一所懸命勉強していますが、理解出来ていない部分もありますし、区も情報開示をしていない面もあると思います。行政機関としての区がいま、予算や組織や

マンパワーを投入し、また過去比において最も重視している課題やゴールを出していただいて、そこに行政評価のポイントを合わせていくのが、区民にとって一番判り易くまた積極的に取組んでいただける方法じゃないかと、小委員会の素案を見て感じました。

■会長　どうもありがとうございました。

■○○委員　ちょっとよろしいですか。最後に言い忘れたことがあるんですけれど。

　今のお話とちょっと重なるかもしれませんが、やはり結果よりプロセス、あとトップダウンよりボトムアップ。大会に出た子供の数も結構なんですけれど、例えば散歩を一日3回から5回していると。例えばですよ。そういうような一般の人たちがいろいろ頑張った結果として、長寿が達成できる、と。そういう、何か別にエリート主義を決して悪いとは思わないんですけれど、もう少し下からこう上に上がる、区政に参加してよかったなと、この区に住んでいてよかったなというところをもう少し生かしていったらいいのかなというところがちょっと最後に抜けておりまして。すみませんでした。

■会長　審議事項の1のところに、政策指標をたたき台の取りまとめとあるわけですけれど、これはどちらかというと、今度アンケートにかけるものとして、基本的にどういうふうなものにするかということで、それが②の指標の数と体系と裏腹だと思うんですけれども。今幾つかのご意見がありましたが、それを踏まえるとして、数の問題があるわけですよね。つまり、大きく言うと二つないし三つのその案があって、第1指標がそれぞれの分野で三つぐらいあって、それで中指標が10なり15なりあって、全体で80ぐらいあると。それから、もう一つは○○さんの案で、少し名前を変えるわけですけれども、大と中・小項目を同じ欄に並べて若干差別化はするわけですけれども、区別はするわけですけれども、これをベースに。

　それから、あともう一つは○○さんの案だと思うんですけれど、ライフサイクルの体系で、こう組みかえるというんですか。そして、ちょっと私も具体的によくわからないんですけれど、1番がいのちで、2番が教育で、3番が福祉で、4番が環境という形にこの指標を組みかえるという、そういう三つの案が出ているわけですけれども。○○さん、具体的にはどんな形に、これ、なるんでしょうか。

■○○委員　すみません、ちょっと言葉足らずで申しわけなかったのですが、以前こちらの検討委員会のときには、10の重点目標の例の緑の本の20ページ、21ページですね。そちらの方がわかりやすいということで提案させていただいたんですが、それプラスしてライ

フサイクル別のものが何かの形で使えればと、先ほど、ちょっと協働とか参画とかアンケートということを具体的に申し上げましたけれども、要するに仕組みづくりの方でそういうものができないかと。それから、先ほどの魅力のことで、○○さんが先ほど若者だけではなくてという話がありましたが。例えば、生涯現役だとか生涯学習だとかありますね。要するに魅力にしても、それから安心・安全なまちとか、5項目、6項目でこれはいいと思うんですけれども、私も。それぞれにやはりライフサイクル別のきちんしたアンケートをとる必要があるだろうと。

　それからあと、区民のＮＰＯの法人数、法人化率と書いてありますけれども、これは数字をとるためには、こういうふうにせざるを得ないのですが、実は法人をとらない団体数がたくさんあるということがもっと重要なので、そのあたりのこともきちっと組み込まなきゃいけないなということです。

　それとあと、前回の検討委員会の流れでいいますと、12の部局が5の部局に変わったんですけれども、区民からするとやはり縦割りであることは間違いないので、たとえこの五つなり六つに分けたとしても、その行政内部の協働関係、パートナーシップの問題をやはり組み込んだ形で、先ほど教育の問題のところで、区長部局と教育委員会のお話をちょっとしましたが、それだけじゃなくて区長部局の内部においても、区民から見れば「区」という形で一つのものですから、それが非常にわかりやすくなってくれればいいなという意味で、もう一つの切り口としてライフサイクルというものを申し上げたのであって、必ずしも今回のこの六つの案をすべてこう、ここからやり直すのはなかなか難しいでしょうし。それをまた、時間をかけてでも、もしそういうのがあれば、今回は試行ということですから幾らでも変えることもできるだろうということで、あえてそういうことを言わせていただいたということです。

■会長　どうもありがとうございました。

　ほかにご意見は。どうぞ。

■○○委員　先ほど○○委員の方から、ご説明がありましたが、資料6の中で小委員会検討案に準拠した形でよりクリアに分けていただいていると思います。その中で指摘された危機管理という意識は、これは先ほど恐縮ながら挙げていただきましたが、やはりこの視点は非常に大切だなということ。それと先ほどちょっと○○委員の方から「ついつい若者に視点を置く」とのご発言があったんですが、これは、別に若者にこびるとか、例えば渋谷

街みたいにあんな集客力を目指すどうこうじゃないんですね。杉並区は社会構造的に20～30代の人口が多いという事実もある。「若者」というのは私が言い出しっぺで、なぜ、敢えて挙げたかといいますと、高円寺を見てみますとシャッター街化しつつあった商店街に次々と古着ショップが入っていって、もう充足状態になっている。これは、何も若者というよりもベンチャー企業にせよ、アニメ産業にせよ志しているのはほとんど芸術家の卵だったり、ファッション・クリエイターだったりしているわけで、何も遊びに来る消費者としての若者というより、そこで営業したり、住む……、若者を指して言っているのです。元気のまちというのは、やはり若者と子供たちの元気さをもらって、高齢者の方も生き生きとするという、そういった意味合いのことでこの「若者」を取り上げているんだということをつけ加えたいと思います。

■○○委員　わかりました。特に、おっしゃる意味はすごくよくわかって。元気という意味ですね、そういうものにこう着目していこうと。そうすると、ただ文字になったときに、どうしてもこう、若者だけと見られるので、指標にするときには○○さんの言ったような、全体的なライフサイクルに応じたものにしていかないと、これは公がつくったものとしてはやはり問題が出てくるのではないかと。ちょっとそういう危惧があったので。ただ趣旨はよくわかりました。

■副会長　ちょっと提案があるんですけれども、最終的な結論はちょっと前のように。いろいろ確かになるほどなと思うご意見も多いわけでして、当面ちょっと、あと最終的な決断をする前に、この○○案でもどちらでも基本的には同じことなんですが、指標には。これで、今おっしゃったこういう指標を盛り込んだ方がいいとか……、特にプロセス指標ですね。確かに区民が関与するということは、区民もこういうことを目標に行っているんだということを入れるということはそれなりにおもしろいと思うんですね。だから、そういうやつは、ただ、理解はできますが、じゃあ、具体的にどういうようなものかというのがないと、理念だけに終わるものですから。もし、資料6でも資料何番でもいいのですがそういうプロセス指標で、しかも住民が参加型なり協働型なり、あるいは行政に対する働きかけなり、あるいは未来に対する新しい動きなり、そういうのがあれば、今おっしゃっていただいて加えて、それからどういう格好で区民にアンケートをするかを決めた方が、もうちょっと時間がありますので生産的だと思うのですが、いかがですかね。

■会長　ちょっと、私、申し上げますと、ごもっともなご意見が多いわけです。

実は、多分小委員会でも議論があったんだと思うんですけれども、統計をどのようにとる、数字をどのようにこう把握するか。それが安定的に得られるのか。それから、その信頼性、データの信頼性といったのは制約があるので、例えば雑誌なりや新聞でスポット的にアンケートをとりますけれども、それとはちょっと違ったような、毎年とる、定期的にとる、と。かつ、それがある程度安定していて信頼性があるという制約があるので、なかなか載せにくいものもあるんじゃないかなと思いますけれど、何かいい知恵があればおっしゃっていただきたいと思います。その上で、この今の時点では、どういうところまで行けばいいかと申し上げますと、1月に区民にアンケートをとる、と。そのアンケートをとる案のたたき台をここである程度もう固めようというのがきょうの会議の趣旨なので、後でまた若干組みかえなり、追加変更などは可能だと思いますので、そういう趣旨で意見を出していただいて、その後で集約をして、そして最後にこの愛称の問題を議論する時間を少しとりたいと思うんですが、いかがでしょうか。

■行政評価担当副参事　1点、事務局からよろしいですか。今、組みかえという話がございましたので、少し事務局の方から1点ご相談申し上げたいと思います。

この分野分けが、小委員会の中で私どももお手伝いをしながらできて、自然な形でできていったなというか、かなりそういう感じを持っておりますけれども、1点、Ｂの緑・環境のところに文化が入っておりますね。これについてはできれば、これは○○委員がお気づきになったと思うんですが、Ｅの自立と文化というふうに、Ｅの方に持っていってらっしゃいますが、できれば、そういう形という組みかえを、並びかえをさせていただければ、非常に区の基本計画の体系にとって評価しやすくなるので、そういったこともご相談させていただきたいと思います。

■○○委員　そうすると、Ｂが五、六指標になると、恐らくＥが15ぐらいになるんじゃないですか。

■○○委員　文化についての取り扱いですが、文化も環境にくっつけた方が判り易いということで、私は原案の方に賛成します。

1番目がハードの問題。２番目が環境と文化。3番目が先ほど○○さんも言ったように自立とか共生とか協働として3番目が良いと思います。つまり、まずハード。次いで自然や環境・文化があって、それから個人の教育とか自立とかの人間の内面のもの、それから健康とか福祉とか人間の体の分野があって、あとに産業とまとめの行政。大きく分けて三つに分け

られる。一つ目がハードと自然環境と文化、二つ目が人間に関すること、三番目が経済そして行政。これが私の頭の中で整理している項目・順序です。そうゆう観点でいくと、文化というものは人間から切り放しむしろ環境の中に入り、人間の方は自立とか共生とかの人間の頭の中の問題が中心になる。つまり文化財とか文化・芸能とかは環境の方にくくった方が判り易いと考えます。

■○○委員　いいですか。とてもいい意見だと思うんですが、その前にちょっとだけお話をしたいのは、これをある人にちょっと見せましたら、やっぱり検討案でもちろんこれはこれで、私の説明足らずがあるのですけれども、これは何なのと、要するに五つに分けたその前提は何なのと言ったときに、私、先ほども言いましたけれど、やはりコミュニケーションをよくしたりとか、情報公開、それからプロセスの透明性の確保、そのあたりのところが先ほどのアンケートにつながるところなんですが、それを全部やはり、それに満足しているのか納得しているのかというのが、すべてのところに入っていく。それが多分アンケートのところにかかわって、皆さんと共有できる。どこまでできているのか、まだ足らないんじゃないかという意見があったら、どこが足りないのかというのを、実際に区民の人に聞いてみる。私なんかも、ここ数年、やっと行政の人と話をするようになっただけであって、ついこの間までは、全然知らない、ごく一区民だったわけですから。そういう人たちに投げかけるものとして、やはり情報公開。それで、件数ではなくて件数にどう対応してくれたかという、その対応ですね。対応件数ではなくて、その対応も幾つかの類型をつくりまして、知っていますかとか、ちょっと私のところに書きましたけれども、要するに満足度じゃなくて納得度で、納得度というのは知るという段階と、それから最低限度基礎的自治体として、これ以上ひどかったらもう我慢できませんよというところと、それからよく副会長さんがおっしゃる標準の部分ですね。ここまでできているのかどうか、23区内で標準までできているのか。それからあと、会長さんがおっしゃった都市型のベストプラクティスとしてはどこを強調してやったらいいのかという、それが区民と区が情報共有できるという、先ほど人と金と仕事の行政評価システム全体と言いました。それを支えるのが情報なんですね。

　それでＩＴと、先ほどのライフサイクルの方の4ページの方を見てもらうとわかりますが、第2回の小委員会の。そこで欠けているものは何ですかといったときに、ＩＴとコミュティというのが出たんです。確かにそうであって、こちらの方の六つに分けても、ＩＴのこと

が例えば電子政府のことが、今回法律に促進するようなのが通りましたし、そういうＩＴの部分と区民とどういうふうに、前回も○○委員がインターネットモニターですか、その話もおっしゃっていましたし。それから、それだけではなくて、もろもろの部分で情報公開とか透明性の確保というものがやはり基盤にあるんだと。それがあって初めて区民の、今まで最初のときも出ていましたけれども、区民は非常にいろんなことを知っていて、区民は教育水準が高いだけではなくていろんな埋もれた人材がいるんだという、そのあたりもきちっとアンケートで出てくるような、そういうアンケートにできたらいいなというふうに思います。

■副会長　ちょっと小委員会からの補足なんですが、このＡからＦの順位づけなんですが、Ｆが支えるということなんですが、特にＡは多分一番重要かもしれないんですが、特にこれ序列をこうつけて、順番に重要性が高いものから並べているわけじゃなくて、この整理が悪くてむしろこの上にこうＡＢＣＤＥと並んで、最後にＦが支えるという……、こういうイメージ図を、むしろアンケートには使っていただきたいんですね。多分……、というのは、安全・安心だけじゃどうやって飯食えるのかという問題がありますからね。だから、全部バランスとれていないのは、我々のあれで。しかしその中でもやはりいのちが一番重要であるというので、Ａは挙げたんですが、あとＢ以降の順位優先度というのは議論していないんですね、実は。

■○○委員　私もあえて、ただ、いのち、それから教育それから福祉それから環境というふうに円で書きましたけれども、手書きのところで。ただそれも、これは五つに、先ほど12部局から5の部局に分かれたけれども、やはり縦割りを何とかしてもらわないと区民の方からはなかなか一緒にはできないというのと同じなんですけれども。分けてはあるんだけれども、実際は一緒にやらなくちゃいけない部分はたくさんあるんですね。だから、そういう意味でただ、やはり今まで行政と言ったときに、安全保障とかそういうことについて、みんな自分の問題として考えないで全部行政にお任せだかとか、ほかのところに任せて、空気と水はただとかいろいろありますけれども、そういう意識を払拭していくための一つの考え方として、やはり、とりあえずはそういう考え方を持った方がいいんじゃないかと。ただ、先ほど副会長さんがおっしゃったように、全体としてはやはりＦがＦである区政経営というのが支えて、それでそれぞれのところに対してみんな一様に情報共有できるような形のアンケートをぜひお願いしたいと思っております。

■会長　もしよろしければ、ちょっとご提案を申し上げたいと思うんですけれども。

この資料1のアンケートにどんなものを出すかということなのですけれども、幾つかご提案のあったものを若干つけ加えられるのがあればつけ加えるのをちょっと検討しまして、そうすると多分中指標のところが若干ふえるのかもしれませんが、これをベースにしてアンケートをとってみると。そしてちょっと文化の扱いが私もよくわからないんですけれども、もとので出してもいいし、組みかえて出しても、どっちでもいいですけれども、アンケートの反応を見て、またやっても、また戻してもいいのかもしれませんけれども、この原案をベースに体系と数というのでやるのはいかがでしょうか。

■○○委員　よろしいですか。○○委員の資料6の方も捨てがたいというか、いいと思うんですが、先ほど○○さんがおっしゃった危機管理ですね。やはり「安全・安心」というのを仮に「危機管理」というふうに置きかえるとしたら私もちょっと、私の「いのちと危機管理」とか、そういうのって結構わかりやすいのかな。危機管理って今まで余り考えたことはなかったけれど、だけど、いのちというのは、やはりすごく子供もわかるし、非常にソフトでもあるし。

それから、Ｂの方の○○委員の方は、省資源と環境ですか。それを例えば、緑ですから人間と自然との共生みたいな、共生と環境とか、何々に何々というような形でやれたらいいのかな。それで、健康・福祉はちょっとわからないんです、どちらがいいのか。健康と福祉と、健康と長寿、これもいいと思うんですね。それから、みどりの産業のところはちょっとわからないんですけれども、Ｅのところは、先ほど○○委員がおっしゃいましたけれども、キョウイクと言ったときに、協力の協の協育というのは先ほどおっしゃいましたけれども、共に育つというそっちの共育でもいいし、そのあたりちょっと教育と何とかにした方がいいかな。文化をこちらに持ってくるかそれともＢの方に持っていくかで、またちょっと変わってくると思いますが。

あと区の健全経営というのは、やはり区政経営の今の一番焦眉（しょうび）の急のところですから、これもわかりやすくていいのかなと。あと、できれば何々と何々というような関係性で持っていったらわかりやすくて、しかも片一方はわかるけれど片一方はわかんない、だけどそこから入っていこうかという、そういう部分もあるんじゃないかなというふうに思いますけれども。

■会長　そうすると、Ｄはどうなるわけでしょうか。どなたか。

■○○委員　では、ちょっといいですか。私のこの案に対して意見をされたので。私の方から、じゃあ、ちょっとお答えを少ししたいと思いますけれど。

別に反論というわけじゃありません、どうでもいいと思っていますが。ただＡに、「いのち」という言葉は、私は余り好きではありません。非常に茫洋（ぼうよう）としていて何を、やればいいのかわからない。もちろん、その言葉、普通、学問の世界でマジックワードという言い方をして、その言葉を出されるとみんな黙らざるを得ないという。要するに議論がとまっちゃうんですね。そういう言葉をなるべく排除しようとしたのが私の案です。例えば「福祉」と言われると、福祉という水戸黄門の印籠の前では、もうだれも逆らえませんし、ははーっという感じの二の句がなくなるという、そのことはやめた方がいいんじゃないかなということで、なるべくそのワードを捨てているんですね。また、いのちの場合、長寿とこのＣとも絡みますし、Ｄとも絡むというような非常に大きな概念になってしまうので、そういう意味です。

それから、実は、緑についてなんですが、本来、Ｂにそういうものは、緑と環境というのが入るべきじゃないかという、私もそう思っておりました。それで、○○さんはご存じなわけですが、小委員会でいろいろ検討してみますと、意外と杉並区の緑はプアであったと、どの指標を出しても上位にならないという。これは打ち出してしまうと、つまりその弱さがさらけ出されるという、非常に悩ましい事情がございまして、そういう意味で省資源、要はリサイクルとエコロジーというふうに、はっきりこのＢは打ち出した方が、そういう意味ではＡとＢにある種の緊急性を持たせて、びしっと打ち出した方がいいのではないかなという。

あと、教育とか育成とか文化というのはむしろ後ろへ持ってきて、そこでソフト的なものを支えていくというふうな感じじゃないかと思うんですが、そのＥで教育というワードを使ってもいいと思いますし、また自立というワードがそれほど抵抗のあるものならば、変えてもいいとは思います。

ここで、とにかく小委員会で本当に悩みましたのが、○○さんもご指摘のところなんです。夢のようなもの。もっと言えば、本当はその文化がとれないんですね、指標として。どうしようもないんです、これ。例えば、文化勲章の受賞者数とか、作家が一体何人住んでいるかみたいな、しょうもない話に。あるいは、展覧会に何人の入場人数があったかみたいな、どうしようもないものしかとれない。要するに、そういうものって結局、いろん

なところから醸し出されてくる勢いようなものなので、なかなか悩ましいというところがありまして。先ほどちょっと指摘のありました国際性みたいなものを、結局何がとれるかといいますと、Ｅの自立と文化のところ、下から2番目の唯一はっきりとれるのが、通訳ボランティアの数という、これが国際性指標かという感じもあるんですが、しかし、これがどうもいろいろ挙げてみると一番現実的で近いというような、そういう悩みは確かにございます。夢とか文化というソフトの部分については、はっきり申し上げて弱いというところがございます。

じゃあ、最後に打ち出しているもの、何もないかというとそうではなくて、各所に幾つかずつ、小さな項目ではありますが他区では絶対はかっていないようなものも入っておりますが、大まかに言いまして、Ｃではっきりと長寿をうたい、長寿の中でも健康寿命というところをびしっとうたうということ。それから、Ｄのところでは、アニメとみどりの産業というのはここまではっきりうたうということ。

それからＥのところでは、学校を開くということについて、先ほど○○さんから非常にいい提案があったと思うんです。ゲストティーチャーの数ではなくて、数はもちろんなんだけれど、年齢・性別とかカテゴリーの多さということをむしろとるべきだということだと思いますし。不登校児童生徒数、これはふえたらいけないのではなくて、この人たちをどういうふうにいろんな教育の機関で拾って、非常にこうハッピーにしたかという積極的なことを評価すべきだと。そのとおりだと思います。そういう意味でも徹底的にこの学校を開かせるための幾つもの指標がここにかなり盛り込んであって、ここは多分売りだろうなというふうには思います。

以上です。

■○○委員　ちょっとよろしいですか。本当にこの項目の立て方って物すごく難しいんで、そのことは、みどりもいのちも文化も茫洋として、本当にこれは考えれば考えるほど、どつぼにはまるので、あんまりこう、むしろあえて思考停止する。で、大体、確かに本当に平和だとか人権とか言われて、へへえとなっちゃうような、女性の人権とか言われるとなっちゃうのでそれはやはり避けなきゃならないんですけれど、やはり緑とやはり文化というのは薫らせておいた方がいいのかなと。やっぱり杉並らしさで。それで、確かに指標が緑が少なくなっちゃってという問題がありましたけれど。だからこそ、1回目に言った杉並のいわゆる公益法人ですな、神社とかお寺の面積が、緑……、結局、神社とかお寺という

のは自然との共生する文化なんですね。西洋みたいに自然を破壊する文化というのもあるんです。それを杉並区、日本は特にそうですし、事実その中で、さらに杉並区は特に重視しているということを、そこをうまいぐあいに指標にすればのっけられるんじゃないかなと。単に、要するに公園の数だとか、そういう形じゃない指標のとり方。とり方を少し工夫をすれば多分のせられるというか、やっぱりそこはのせておきたいですよね。せっかくこう緑色のあれでつくってあるわけですし。やっぱり文化人も多いわけです。杉並文化村ですか、そういうものがあるので。あ、阿佐谷文化村ですか。そういうのもやっぱり誇れるものだと思います。

一応、以上です。

■○○委員　この資料1と資料6、○○さんがつくられたやつとこう比較してみますと、僕は個人的には、どちらも捨てがたいんですけれども、○○さんの方がユニークなのかなという感じがして、あと明確、ご自身がおっしゃるとおり、はっきりとした輪郭が見えるかなという感じがします。

ただ、若干イメージのダブりというか、Ｂの省資源と環境の環境の部分とＤのみどりの産業のみどりの部分とかが重なっていたりなんかして、多少言葉は、やはりもうちょっと考えた方がいい部分もあるのかなと。例えばＦとかなんかも、区政だけじゃなくて区民の部分も結構あるんで、区政と区民とか、多少工夫の仕方があるかもしれないなという感じがします。

あと、中指標でいうと、僕も、これまた○○さんの案の方がいいんじゃないかなと思うのは、先ほど私が質問しましたのに、大指標と中指標の関係がそれほど明確なものではなくて、片方が重点的で片方がそれほど重点的でもないというか、変わり得るものだとするならば、こうした形で基本指標と重点指標とか、あるいはそのほかの指標みたいな形で区別はしても、大とか中とかという階層性のあるような形ではしない方がいいのじゃないかなという感じがしました。

あと個別的には、この指標をもうちょっと議論しなきゃいけないところがあるのかなと思ったのは、例えば自分の専門分野で言えば、このＦのところの選挙投票率ですけれども、どの投票率なのかなと思っちゃって。例えば投票率を上げることが区の経営の評価につながるのかどうかということなのかなと思いましたが、例えば区長の選挙だと考えれば、投票率が上がることが区の経営に対する評価には必ずしもならない。投票率が高くて現職区

長の得票率が低いという可能性もあるわけです。投票率という……。

■○○委員　不満で高まるから。

■○○委員　はい、そうです。ですからこれを、区長や区政に対する評価でするんであるならば、例えば区長の得票率あるいは支持率とか、そういうふうにしなきゃいけない。だから、こうした個別の指標に関してはもうちょっと細かく吟味すべきだろうというふうに思います。

■○○委員　今のご意見、すごくいいと思いました。それと、結局、やっぱり区政と区民。先ほど協働と参画というのがキーワードになっていて、それをどういうふうに仕組みをつくっていくかというのがやっぱりすごく重要であって、そういう意味ではこれから仕組みづくりの話にもなってくるので、例えばきょうここが区政と区民との協働と参画というような形になったら、これからもそれについてみんなで話し合うんだと、そのときにぜひ参加してくださいということにもなるのかなと。

　あと、今までのお話をちょっと伺っていて、キーワードとしてここに入るかどうかは別としてちょっと感じたのは、「開く」。今までやっぱり閉じていたという行政の悪いところ、それから、区民と必ずしも向き合ってなかったんじゃないかと、「向き合う」というキーワード。それから参加・参画でいうと、参加の仕組みをどうつくっていくか。これから、いろんな先ほどの例えばＥのところで教育と文化、まあ文化はちょっとほかのところに行きましたけれども、例えば教育のところを、教育とコミュニティとか、要するに学校内でそこも閉じているからいろいろ問題があったんだけれども、コミュニティとどうつながるかというのが多分解決策のキーワードになるんじゃないかということでいうと、教育とコミュニティとか、幾つか可能性が出てくるのかなというふうに思います。

　そういう、要するに、先ほどの国際性のところでもそうなんですね。コミュニティがしっかりしていれば、そのコミュニティの中に多様な人たちが入ってきたときに国際性につながる、杉並の中にも国際性があるんだというところにもなってくるので。例えばコミュニティって、ちょっと片仮名なんですけれども、何かいい日本語があれば別ですけれども、そういうもので要するに地域性と国際性を兼ね備えたコミュニティのような、そういうイメージをできたらいいかなというふうに思います。

■副会長　1点だけいいですか。僕はどちらでもいいんですけれどね。○○案は○○案でこれはいいと思うんですけれど。○○案にした場合に、ちょっと私はほかの委員の方ともあ

れなんですが、これでやると結局集約化するという場合は何勝何敗というイメージがないんですよね。結果的に……、だからこれは逆にいうと、資料6でやるということはもうその総合化というのもおのずとその方向でいくということで各委員さんがご納得いただければ固執はしませんが、総合化の要素をもしまだ残しておくということであれば、今の段階でその資料6を候補にかけるということは少し慎重であった方がいいのではないかという、個人的ですけれどね、そう思います。

■○○委員　すみません。私、内容の方ではなくて、その大指標のところの名前として変えた方がわかりやすいかなというレベルで、やっぱり小委員会で一生懸命やってきた部分は尊重しながら、どこまでこう変えられるかという、そこをぜひ意見を伺いたいなというふうに思います。

■会長　あと15分しかないので、小委員会のような議論をちょっと蒸し返すというのは、あと10時間ぐらいあれば別なんですけれども。

■副会長　最終的には会長に一任しますから。

■会長　いやいやいや……。それで実は、今ちょっと二つ申し上げたいんですけれど。

　最終的にどうまとめるかは別にして、私、先ほど来繰り返しているように、このアンケートにするためのたたき台を確定しようというのが、本日の会議の目的である、と。だから、最終的にどういうふうになるかはまだちょっと時間的な余裕があるので、いろいろ議論をいただいて改善するのはいいんですけれども、1月に向けての作業の中間まとめをしたいというのが本日のあれなので、毎年毎年アンケートをとるというわけではなくて一番最初に案を示してアンケートをとるというので、ですから、せっかく資料1のような形でまとめていただいたので、これは別にして。ちょっと先ほどの緑と文化がちょっと入り組んでいるのが気になるので、それをちょっと調整、やりくりでしまして。

　それからもう一つ、プロセスについての指標を幾つか入れたらいいんじゃないかというご提案があったようなので、それを少し入れて。そうすると、若干中指標のところが膨らむのではないかと思いますけれども。そういう形で取りまとめをさせていただいて、それでアンケートにかけると。そして、それを見て、2月にもう一回ありますので、そのときにもうちょっとたたくと。あるいはそれまでにその中間的な結果が出てくるでしょうから、事前に皆様からちょっと意見をいただいて、それで2月にまとめようというふうなことにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

■行政評価担当副参事　ちょっと今のスケジュールなんですが、実はアンケートを、特集号の枠を1月21日号でとっておりまして、これはなかなか簡単に変えられないものなんですが、そこでアンケートをして、大体締め切りを20日間ぐらいとりますので、次回の2月2日ではちょっと取りまとめがあれなんで……、その次ということにさせていただくことになろうかと思います。

■会長　失礼しました。ちょっと誤解していました。

■行政評価担当副参事　その次。

■会長　そうすると、2月はどういう位置づけになるんでしょうか。

■行政評価担当副参事　すみません。2月の大体スケジュール的な話としては、今年度の最後、第5回が2月ということになろうかと思いますが、これは大体2カ年を想定している委員会だというのは、一番最初、当初に申し上げたとおりなんですが、その第5回、あるいは次年度の第1回ぐらいを含めて、政策評価システムにもう少し肉づけをしていただくような感じで、それで試行に移っていくというような感じになるのかなというふうに思っておりますが。

■会長　わかりました。それで……。

■○○委員　よろしいですか、ちょっと1点だけいいですか。

　内容じゃなくてアンケートの内容のやり方なんですけれども、アンケートへの対応が、２回目、新年度ですか、結果が新年度の方になるというお話だったのですけれども。コミュニティレベルの多様性が出てくるような、そういうとり方というか、例えば、前にも言いましたけれども、学校と児童館だとか幾つかの切り口があるんですね。例えば1万人とか8,000人ぐらいのレベルのところが出てくる。そういう何かやり方でやってもらえると、次の仕組みづくりとか行政評価システムづくりのときに、杉並らしさに少しでも、そのアンケートがつながるのかなというふうに思いますけれども。

■○○委員　すみません。もう余り時間がないということで、きょうも私、初めて出席させていただいて、かなり活発な議論を聞かせていただいて感心しております。

　一言だけコメントなんですけれども、民間企業なんかでよくこういう調査もするのですけれども、やはり必ずほかとの比較というのが重要でして、この最初の基本的な視点という中にも、きちっと5番目に比較可能な指標として、他の自治体との比較というのが書かれております。きょうの説明の中で、どの指標をそういう指標として挙げられているのかと

いうのがちょっとわからなかったんですね。多分こういうのは継続的にやらないといけないと思いますので、大指標の中の幾つかなのかなと思ったりするんですけれども。この辺は項目を決められるときに最初から意識しておかれる必要があるんじゃないかなと。継続させて比較していくという意味です。

区民のアンケートをとりますと、非常に低いレベルのものだったとすると、少しでもよくなったらよくなったとマルをするんですけれども、ほかと比べたときには、とんでもなく低かったということもありましてね。逆にすごくよくできているのに、それが何かなれちゃっていて、不満足だなんて言っているんだけれど、ほかと比べると結構よかったりすると、そうすると予算の振り分けを誤ってしまうことにつながりますので、必ずほかとの比較ということをどこかで意識する。何も全国レベルの自治体と比較する必要はなくて、我々もそうなんですけど、自分のところと同じ産業、例えばハイテクならハイテク産業のよくできている代表的なところを幾つか選ぶかとか、あとまたこういった区政とかでしたら、多分、国レベルとか、いろいろな調査会社がアンケートをとったりしていますよね。人気のある都市とか、観光の問題とか。そういったものを幾つか入れておくとか、そういったところを必ず入れておく必要があると思います。そうしないと、ひとりよがりで比較できないものになってしまって、満足だけしたりとか、かえって落ち込んだりとかということをしちゃうんじゃないかと思いますので、一言だけ。

■会長　どうもありがとうございました。初めての出席で大変経過がおわかりにくかったかもしれませんけれども、どうもありがとうございました。

それでは、最後にその指標の名称をみどり指標、すぎなみマーク、あと何ですか……、もう一つぐらいあったと思いますけれども。これもまとめてしまうということなんですけれど。小委員会では、すぎなみマーク、みどり指標、杉並みどり指標というような案が議論されたように資料の3の8ページでは最後のところに記載されておりますけれども。皆さんいかがでしょうか。

■○○委員　○○委員がいらっしゃるのでちょっと経過だけ申し上げますと、この緑の本のたしか20ページだったと思いますが、すぎなみシップ、すぎなみモデル、すぎなみルールというのがあって、そうすると平仮名のすぎなみで下が片仮名だとそろっていいかなみたいな、そういう単純な発想もあって、すぎなみマークというのがたしか出てきたような気がしました。

それであと、先ほどもちょっと言ったんですが、「指標」と言ったときに何かこうかたいイメージでよくわからないので、やはり指標というのはやめた方がいいのかなというような、私の個人的なイメージですけれどもあるんですが。私としては、すぎなみマークでまとまるんであればそのぐらいでいいのかなと。要するに内容は、ちゃんと見てくださいよと。ほかとのバランスからいうと、そういう形でやると一つのシステムとして入っていくかなという気がするんですけれど。

■会長　○○さん、杉マルという、これはマスコットですか。

■○○委員　そうですね。

■○○委員　杉マルって、すごくしゃれていていいんじゃないかなと私も思うんです。

■○○委員　○○さんの案は、すぎなみマークでしたっけ。そうですよね。シンプルに聞くと、すぎなみマークって、何か杉並にマークがあって、何かみんな区役所の方がバッジをつけているという感じのイメージがあるんで。僕は、じゃあ、これはもう選んでいただかなくてもいいんですが、一応あえて「杉マル星取表」と、「杉○星取表」とマルがこう、記号の丸でもいいんじゃないかという感じの……。

■○○委員　しゃれていて、なかなかいいんではないかと、私もこれは賛成ですね。変にマークとかよくあるパターンじゃ、ちょっと。

■○○委員　すみません。それでは、もし可能であったら、杉を平仮名にという、しつこく。

■○○委員　僕のこれは全然いいです。これ（すぎまる）が正しいんですか。これ、杉はひらがなのも漢字のもあるんですか。

■○○委員　すぎ丸。

■○○委員　バスのときはこれですから。

■○○委員　知る区ロードの方は。知る区ロードの方はどうなんですか。

■○○委員　知る区ロードは……。

■○○委員　知る区ロードのすぎまるというのは平仮名ですね。

■○○委員　そう。

■○○委員　すぎまる君というのはありますよね。

■○○委員　すぎまるサポーターとか言ったんですね。

■○○委員　ええ。

■○○委員　何か、漢字じゃなかったのかな。

■○○委員　子供たちが何かやっているじゃないですか。

■○○委員　漢字だったんだっけな……。

■○○委員　片仮名にしたときは指標だというふうにすればよろしいんじゃないですか。ことだまは同じ、呼び方は同じと、すべてスギマルだと。漢字か仮名かという、そういう……、むしろ日本というのは漢字と仮名とあるのがすごい文化なんで、そういうことをあえて主張するのもいいんではないかと思います。

■○○委員　ただ、目の悪い方とか耳の不自由な方には、ちょっとこれではわかりにくいんじゃないですか。どうですかね。

■○○委員　そうすると、本当にほかのことも細かく若者の判断という話になっちゃうんで。そうですね……、やっぱり。

■○○委員　すぎまると同じものがあるということで。

■副会長　押しつけだから……。

■○○委員　歴史的には知る区ロードの方のすぎまる君の方が古くて、しかも木の形をしているんですよね。だから、緑のイメージであるので、できればそちらの方がちょっと私も失念しているので、平仮名だったかはわからないのですが、一緒にするか、それとも別々にスギとマルを平仮名と片仮名にするか。そのあたりで、できれば……。

■○○委員　平仮名がいいですね。

■○○委員　そちらの方で。バスだとちょっとそっちのイメージが強いので。と思うのですが。

■会長　どうぞ。

■○○委員　すみません。先ほど、○○委員も例に出されていましたが、「ざいせい2001」ですか、これも、このかわいい、すぎ丸、今、子どもたちに大人気のバスのキャラクターを使ってつくられているわけですよね、白書を。行財政改革の中でも、これを使われているということ。一応「すぎなみマーク」は私の提案ですけれども、今、思ったのですが、それに加えて○○委員の「杉マル」が出てきました。この字が平仮名か漢字か片仮名かわかりませんが、スギマルという言葉自体は、白書が出された以上、やっぱりちょっと関連させたいなという気持ちに傾いていますけれど。

■会長　そこでちょっと今までを取りまとめますと、今、案が出ているのはすぎなみマー

ク、みどり指標、杉並みどり指標、それから今の、表記は別にして杉マルマークですか。

■○○委員　僕は、星取表で。

■会長　ああ、星取表。

■○○委員　そういうのもおもしろいと。

■会長　星取表も入れると五つになるので、それも合わせてアンケートでとるという手もありますけれどもね。

■○○委員　あえて、刺激的に。

■会長　それで、決めるのは杉並区自体でございましょうけれど、それを参考にして決めるというのでいかがでしょうか。そうすると、スギマルに対する関心も高まるかもしれないということでございます。

　それでは、皆様のご協力を得まして、本日の審議すべき事項は大体以上なのでございますけれども。あと、事務的な今後の作業の問題ですとか日程について、事務局の方から何かございましたらちょっとコメントをしていただきたいんです。

■行政評価担当副参事　それでは、日程等の連絡でございますけれども、今後の予定ということでは、今の段階では先ほど概略申し上げたとおりでございますけれども、日程といたしまして、次回2月5日火曜日2時から4時、きょうのこの場所ということになります。

　アンケートについてもう一回確認しますと、1月21日号で出してアンケートをとるということで、締め切りを大体20日間見ておりまして2月12日、次回2月5日には締め切り自体が間に合っていないということで、整理して出すのはその次ということになろうかと思います。

　以上でございます。

■会長　どうもありがとうございました。

■坪内前委員　元委員として、ちょっと時間的な配分で。企業の場合、2時から4時というのは非常に出づらいといいますか、午前もだめになるし、午後もだめになるということで、丸々一日つぶれちゃうんですよね。何かもう少し時間的に午前中にやるとか、午後でも、もう少し1時間ずらすとかというようなことはできないんでしょうかね。3時からとか。

■行政評価担当副参事　それは可能です。

■会長　私が必ずしも会議を招集しているわけではないんであれなんですけれど。

■○○委員　できれば、協働・参画するには、ある程度時間というものも、例えば夜にするとか、いろいろ多様性に考えた方がいいんじゃないかなと。

■行政評価担当副参事　それでは、今提案がありましたので、せっかく、そろっていらっしゃるときの方がいいと思うんですが。例えば次回3時からというふうにした場合に、いかがなんでしょうか。会長は……。

（　この間スケジュール調整の話につき省略）

■行政評価担当副参事　では4時から6時ということで。この場で決めさせていただきます。
■会長　では、どうも長時間、ありがとうございました。